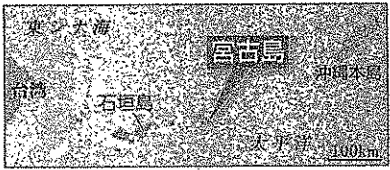


沖縄 宮古島に自衛隊ノ

美しい海と豊かな自然が広がる、米軍基地もない沖縄県の宮古島。那覇市から南西約300キロに位置するこの平和と観光の島に、防衛省は「島嶼防衛」強化を口実に陸上自衛隊の部隊を配備する準備を加速させています。7月以降、宮古島の自衛隊協力会による学習会などを通じて地元工作を続けています。これに反対する住民は、「止めよう



『自衛隊配備』宮古郡民の会』を結成。自衛隊配備は「戦争法」と一体のものと批判し、阻止の動きを始めています。
(柳沢 哲哉)

配備の動き加速 立ち上がる住民

宮古島に配備される陸上自衛隊は単なる警戒監視部隊ではありません。対中国を念頭に置いた攻撃能力を持つ部隊配備で、防衛省の計画では、警備部隊、地対空ミサイル部隊、地対空ミサイル部隊と指揮統制機能を宮古島に配備し、隊員は700〜800人規模。
大福牧場周辺、千代田ゴルフ場周辺が候補地に挙げられ、射撃訓練場や弾薬庫

も適る計画です。下地敏彦宮古島市長は、7月の市議会です。自衛隊配備について「必要性は理解できる」と菅舟。琉球新報は、千代田ゴルフ場の活用について防衛省や自衛隊関係者に市長自ら要請していたと報道しています。(5月13日付)

政府答弁に「反し特定の国名あげ
5月11日、防衛省の左藤

章副大臣が宮古島市入りし、下地市長に自衛隊配備計画を伝えました。2016年度予算の概算要求で防衛省は、用地取得・敷地造成費などで108億円を計上しています。

自衛隊や沖縄防衛局も7月から、宮古地区自衛隊協力会による学習会などで地元工作を進めています。6日、中央公民館で開かれた協力会会員を対象にした学習会。どういふ計画を進めているのか知りたいと会場に来た市民を、会員ではないと追い返し、県議の入場も拒みしました。

協力本部長の山根寿一陸将補と沖縄防衛局の森浩久企画部長が立ち、「ロシアは日本全てを飛行経路に収めている」「北朝鮮は拉致事件を主導したといわれる特殊部隊が20万人もいる」「中国の国防費はこの10年で4倍」などと強調。約40分間、中国や北朝鮮の脅威を説き、いざというときに備え、宮古島に自衛隊を置く必要がある、那覇からでは遅いと強調しました。

中国、北朝鮮の名前を挙げての説得は、「特定の国を脅威とみなしてない」との政府の国会答弁にも反します。ミサイル部隊については、「船や飛行機を撃つ、沈めるため」とも説明していますが、住民を守る視点がまったくなく、反対派に聞かせたら大変というところで協力会会員に限定したと受けとれます。

防衛省の動きに呼応して宮古島の自衛隊配備推進派の動きも活発になっていきます。自衛隊誘致を求める「自衛隊配備促進協議会」(野津武彦会長)は市議会に「早期配備」を求め陳情。7月8日、下地市長を支持する与党が過半数を占める市議会は採択を断りました。

「郡民の会」結成
署名や宣伝奔走
自衛隊配備に反対する市

戦場の島はごめん



陸上自衛隊配備候補地の大福牧場周辺

民も黙っていません。5月29日、「宮古島の平和な暮らしをこわす自衛隊配備に断固反対」として「止めよう『自衛隊配備』宮古郡民の会」が結成されました。8月29日には、元宜野湾市長の伊波洋一氏を招き講演会を開催し約500人が参加。伊波氏は、陸上自衛隊のミサイル部隊配備によって、宮古島が戦場になりかねないと指摘しました。「止めよう『自衛隊配備』宮古郡民の会」の構成そのような島にされること団体である「宮古平和運動連絡協議会」共同代表の水早子さん(66)は、配備反対署名やチラシ配布、インターネット署名などで奔走しています。

2005年、下地島空港「宮古島・命の水・自衛隊配備について考える会」代表を務める医師の岸本邦弘さん(54)は、宮古島の住民の飲用・農薬用水として利用されている地下水の水源地と射撃訓練場の予定地が重なり、水源が汚染される危険性があると指摘し「自衛隊配備は島の破壊になると警告します。」

郡民の会などが取り組んでいる配備反対署名は1万2000筆に到達しました。運動の輪が広がっています。

文化財や水源：島の破壊許さぬ
国の重要無形文化財に指定されている宮古上布を織る斎藤美喜さん(58)も署名などに協力。「宮古上布は材料も宮古のもので、ひとつのエリアですべての工程をしています。人間関係を大切にしながら助け合っ

て布を織っています。軍隊が入ってくることで、その関係が壊されてしまう」と話します。

自衛隊配備阻止へ郡民の会と共同して活動している「宮古島・命の水・自衛隊配備について考える会」

代表を務める医師の岸本邦弘さん(54)は、宮古島の住民の飲用・農薬用水として利用されている地下水の水源地と射撃訓練場の予定地が重なり、水源が汚染される危険性があると指摘し「自衛隊配備は島の破壊になると警告します。」

郡民の会などが取り組んでいる配備反対署名は1万2000筆に到達しました。運動の輪が広がっています。



自衛隊配備に反対する清水さん(右)と尾毛さん(左)。11日、沖縄県宮古島市